



茨城県 結城市立江川北小学校

結城市立江川北小学校は、ユネスコ無形文化遺産に登録された「結城袖」で知られる茨城県結城市の南部にあります。明治6年（1873年）に田間小学校としてスタートし、140年余りの歴史を誇ります。豊かな自然と人情味あふれる地域の人々に囲まれた穏やかな環境で、全職員が全児童の担任という意識をもって、「信頼される学校」、「子どもが生き生きと活動する学校」を目指しています。



ユネスコ無形文化遺産登録「本場結城袖」

2015・2016年度は、茨城県金融広報委員会から「金銭教育研究校」の委嘱を受け、「主体的に思考・判断し、表現できる金銭教育の実践 ―ものやお金の価値に気付き、実生活とつながる学習活動の工夫を通して―」をテーマに、教科を越えて関係のある単元や題材を選び、研究・実践に取り組んでいます。

例えば、1年生の算数科「30より大きな数」の単元では、買い物ゲームを取り入れました。決められた予算のなかで遠足に持って行くおやつを買うという場面を設定し、実際におやつを買う体験的な活動を行うことによって、学習したことを実生活につなげられるようにしました。3年生の総合的な学習の時間「江川の野菜をつかって収穫祭をひらこう」の単元では、結城市の作付面積第5位を誇る「大根」の栽培・収穫・試食を体験しました。地域の方々の助言をいただきながら、生産者や消費者といったさまざまな立場で考えられるようになりました。

また、保護者の方々にも子どもたちと一緒にお金のことを考えていただけるよう、親子学習会にも取り組んでいます。

本校児童は、ものを大切に使うという意識はあるものの、記名のない落し物について呼びかけても落とし主が分からないことがあります。ものを大切にしたり、お金を節約したりすることを考える機会が少なくなっているような気がします。この2年間の金銭教育を通じて、ものやお金の価値に気付き、変化し続ける社会のなかにあっても、絶えず主体的に思考・判断し、たくましく生き抜く力を身につけてほしいと願っています。



結城市立江川北小学校



総合的な学習の時間の「植樹祭」。どんぐりから育てた苗を植えて森に恩返し